

薬 剤 科

【令和元年度総括】

薬剤科内主な動きは、4月に薬剤科長 千代永 卓 先生(消化器内科医師)就任されました。9月に薬剤師1名採用されました。化学療法件数増加、薬学生の実務実習受け入れ(九州保健福祉大学1名)、出前講座(お薬の基礎知識)、薬剤師公開研修会開催(年2回開催)、薬一薬連携(山鹿地区勉強会・総会・公開薬剤師研修会開催 等)、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定(7名)、日本緩和医療学会学術大会参加、日本乳癌学会学術総会参加、日本臨床腫瘍学会参加、日本癌治療会学術集会、日本緩和医療薬学会参加、日本腎臓病薬物療法学会、オンコロジー研究会研修会、熊本県国保地域医療学会発表、院内クリティカルパス研究発表、熊本県国保学会発表、血糖値改善セミナー参加、医療安全管理者養成講座、院内クリティカルパス研究発表、肝炎サロン講師、院内感染対策講習会参加、がん専門薬剤師集中教育講座参加、医療安全管理者研修会参加、キャンサーボード参加、医薬品採用薬の検討・整理・ジェネリック医薬品変更等、多くの業務を充実し学会・研修会等も参加・発表幅広く活動を行いました。3月末で薬剤師1名退職。

※平成 31(令和 1)年度薬剤科実績 (月平均)

	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
IVH 調製件数 (件)	5	2	3 件減
薬剤管理指導算定件数 (件)	413	406	7 件減
入院処方せん枚数 (内服外用)	2,567	2,513	54 枚減
入院処方せん枚数 (注射) (枚)	4,052	4,059	7 枚増
抗がん剤調製数 (名)	60	53	7 名減
抗がん剤調製件数 (件)	128	98	30 件減
薬剤鑑別報告件数 (件)	279	257	22 件減
DI・疑義照会件数 (件)	10	7	3 件減

【スタッフ】

薬 剤 科 長 千代永 卓：(消化器内科医師)

副薬剤科長 金森 浩明：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、山鹿地区薬剤師会副会長、熊本県病院薬剤師会理事、熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

主任薬剤師 松田 光司：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

柴田 佳代：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師

主任薬剤師 松尾 貴史：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
日本糖尿病療養指導士

薬剤師 浦田 詩乃：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
熊本県肝疾患コーディネーター、熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

生田 佳嵩：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
熊本県肝疾患コーディネーター

森 まりえ：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、
熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

薬剤師 9月 1名採用

薬剤助手（半日勤務） 1名

【今後の課題・展望】

次年度は、薬剤師募集、後発医薬品変更検討、化学療法対応、薬剤師公開研修会開催、薬—薬連携・病—薬連携強化、出前講座開催、薬学生の実務実習受け入れ、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定等、多くの業務、採用医薬品見直し、ジェネリック医薬品等検討していきたいと思えます。

臨床検査科

【令和元年度総括】

令和元年度は検査件数の増加に伴い、臨床検査技師 2 名を採用し生体検査業務の充実と迅速な対応を図りました。

また、更なる技術の向上を目指して、日本臨床衛生検査技師会・熊本県臨床検査技師会が実施する精度管理調査や各研修会に積極的に参加しました。

【主な業務実績】

	生化	CBC	検尿	超音波	細菌培養
年間検査数	31,279	28,933	13,382	3,075	2,153

【スタッフ】

臨床検査科長：木下 浩一(外科医)

副臨床検査技師長：渡邊 正剛(熊本県臨床検査技師会県北地区理事)

野中 裕直

主任臨床検査技師：川添 美恵子

坂梨 由佳(日本糖尿病療養指導士)

臨床検査技師：緒方 かおり

中小田 礼(超音波認定検査士:体表臓器、消化器、泌尿器)

伊藤 佐由美(超音波認定検査士:循環器)

城 沙知(超音波認定検査士:消化器)

清田 千草(超音波認定検査士:循環器)

高本 和摩和摩

【今後の課題・展望】

チーム医療の一員として地域住民の生命と健康へ貢献することを目的とし、以下の項目を充実させることを課題とします。

- ① 検査技師としての役割と責任を自覚した業務への対応
- ② 各研修会への積極的な参加による知識と技術の習得および共有化
- ③ 他職種との連携

放射線科

【令和元年度総括】

- ① 骨密度検査装置が更新されました。
- ② コロナ感染疑い患者の CT 検査、一般装置(胸部)が開始されました。

【実績】

検査項目	件数
一般撮影	19,143 件
透視造影	520 件
内視鏡透視	336 件
CT 検査	6,083 件
MRI 検査	2,192 件
血管造影	40 件
画像ファイリング	2,697 件
骨密度	378 件
ポータブル	1,200 件
オペ室	196 件
マンモグラフィー	998 件
計	33,783 件

【スタッフ】

放射線科長：幸 英明
副診療放射線技師長：山崎 俊直
主任診療放射線技師：田中 卓哉
診療放射線技師：福永 拓也
吉田 健一郎
江藤 美佳
放射線事務：多久 美由紀

【今後の課題・展望】

- ・更新時期の機器を長期計画により効率よく更新する。
- ・放射線の安全管理を行う。
- ・共同利用 MRI の更なる増加をめざす。
- ・放射線被害の低減に努める。

臨床工学科 (ME 室)

【令和元年度総括】

ME 室は平成 19 年に設置され、平成 22 年度には、新病棟へ移設し、ME 機器の保守・点検や医療機器の中央管理に取り組んでいる。臨床技術提供としては、CHDF、DHP に代表される急性血液浄化療法や難治性腹水症に対する腹水ろ過濃縮再静注法を行っている。また、臨床工学技士の増員で、肝動脈化学塞栓療法 (TACE) への業務を拡大し、検査、治療中の患者の監視や医療器材の適正使用や管理を行なっている。

さらに、手術室に臨床工学技士が 1 名常勤し超音波凝固装置や超音波画像診断装置、ラジオ波焼灼装置のセッティングや操作、内視鏡外科手術のスコピスト、整形外科手術 (人工膝、股関節置換術) の介助業務を行ないながら、麻酔器、電気メスなどの医療機器の保守点検業務を行ない安全使用の向上に努めている。

【スタッフ】

副臨床工学技士長：西口 博憲 (臨床工学技士、呼吸療法認定士)

臨床工学技士：今村 雄太郎 (臨床工学技士、第 2 種 ME 技術認定士)

【中央管理および、保守点検・操作している主な医療機器】

個人用血液浄化装置・・・東レ TR-55X

人工呼吸器・・・ザビーナ／ベラ／BENNETT 840／V60

輸液ポンプ・・・OT-701／707／808

シリンジ、PCAポンプ・・・TE - 331S／332S／TOP-5530、TE - 361

除細動器・・・TEC-5531／5521／7631／AED

低圧持続吸引器・・・SD-2000／2001／2002／MD-8000P

経腸栄養ポンプ・・・APPLIX

麻酔器・・・PRO-55s／KMA-1300Ⅲ／KMA-1300Vi／Carestation 650

電気メス、超音波凝固切開装置・・・VIO3／ForceTriad／Force FX、SonoSurg／GEN11

超音波画像診断装置・・・I-lab／Aplio 300

ラジオ波焼灼装置・・・VIVARF

内視鏡手術装置・・・Electronic Endoflator／Image／Xenon300

【今後の課題・展望】

保守・点検業務として、内視鏡室に設置している電気メスや内視鏡装置の日常的な点検や、病棟での生態情報監視装置などの更新など、医療機器の安全使用の向上に努めていきたい。

リハビリテーション科

【令和元年度総括】

急性期から回復期の入院患者さまを対象としてリハビリテーションを行って参りました。術後や発症後に早期から携わることで、患者さまの早期の家庭復帰・社会復帰を目指しております。そのための疾患別リハビリテーションの充実を図ってきました。また、対外的に出前講座を行うことで地域住民の方々の健康づくりにも寄与してきました。更にリハビリテーション養成校からの学生を受け入れることで、後進の育成にも貢献しております。

実績に関しては下記に示すとおりです。

		令和元年度	平成 30 年度	前年度比(%)
入院	疾患別	17,513 人	17,403 人	100.63
		39,131 単位	39,614 単位	98.7
	手 技	3,769 人	4,522 人	100.05
	器 具	19 人	0 人	
外来	疾患別	0 人	0 人	
		0 単位	0 単位	
	手 技	207 人	80 人	258.75
	器 具	1 人	1 人	100

(包括病棟を含む)

【スタッフ】

リハビリテーション科長：横田 秀峰(整形外科医)

副理学療法士長：上野 高弘

主任理学療法士：増岡 正治

理学療法士：福島 崇晃

渡邊 龍一

西嶽 翔太

佐藤 亜香李

副作業療法士長：牛島 由紀雄

主任作業療法士：脇山 美紀

作業療法士：松林 佑

平尾 隆昌

北川 昴雅

助 手：中島 久美子

【今後の課題・展望】

患者さまの早期回復・早期退院に寄与し、地域医療に貢献する。

栄養管理室

【令和元年度総括】

給食委託業者変更に伴い、給食管理業務の確立とインシデント対策に取り組みました。食事オーダーの伝達が円滑に行えるよう病棟との連携に努めました。また、栄養補助食品の見直しも実施し、対象者に合わせてフレーバーを選定しました。

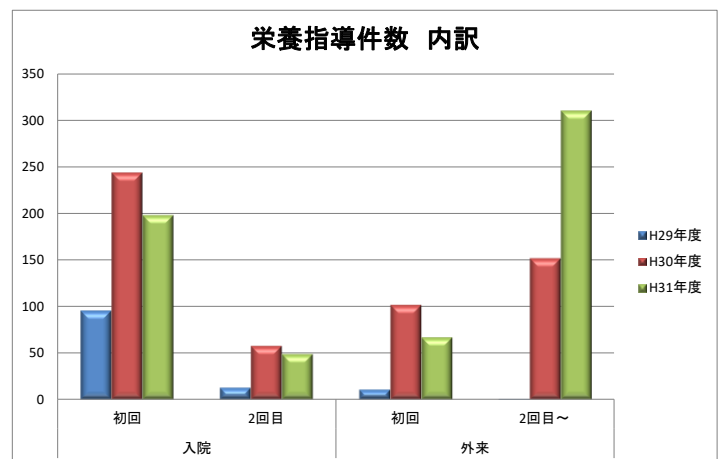
栄養指導においては、糖尿病における外来での継続指導が更に増加しました。

NSTにおいては、栄養スクリーニング指標にサルコペニア簡易評価、フレイル評価(CFS)を加えて対象者を抽出、サルコペニアに対しては誘発原因ごとにアプローチ方法を検討、対策資料の配布や握力訓練ボールの利用も開始しました。

【栄養指導延べ件数】

年間栄養指導件数 667 件
(うち加算 655 件)

	件数
入院個別	258
外来個別	378
集団	31



【食事提供数】

年間提供食数 133,560 食
(うち特別メニュー 641 食)

	食数	%
特別加算食	56,835	42.5
一般食	75,779	57.5

【NST延べ件数】

カンファレンス 50 回開催

	件数
低栄養リスク判定	425
栄養介入	741

【スタッフ】

栄養管理室長：川崎 修二(代謝内科医)

管理栄養士：4名

調理業務：九州フードサプライセンターへ委託

12月1日より株式会社南九州ニチダンへ委託

【今後の課題・展望】

当センターにおける入院時のサルコペニア簡易判定で握力、下腿筋力低下を認める者の割合は、65歳以上の入院患者のうち約2割を占めています。90歳以上のサルコペニア判定患者の場合、そのほとんどが加齢に伴う筋力低下であり、併せて栄養状態の低下やCFSがScore6中等度以上の方が多く現状です。筋力低下は、摂食嚥下機能にも関わる課題であると痛感しています。筋力維持のため、私たちは食事面のアプローチを図り、NSTでも引き続き多職種で経口摂取の継続、栄養状態改善のサポートに取り組んでいきます。

地 域 健 診 室

【令和元年度総括】

令和元年度の人間ドック・健康診断・がん検診等の総数は 3,768 件で、昨年度から 29 件増加しました。主な健(検)診内容別では、全国健康保険協会(協会けんぽ)生活習慣病予防健診 1,620 件(昨年比+20 件)、各種人間ドック 148 件(昨年比-7 件)、乳がん検診は 482 件(昨年比+47 件)を実施しました。健(検)診を受ける事業所数及び受検者数は増加傾向にあり、新規の利用も増えています。

鹿本圏域の職域健診において、婦人科検診(乳がん・子宮頸がん)を同施設で 同日に受検することができるのは当院のみであり、受検者の利便性や要望に沿った利用を提供できる体制を整えております。また、山鹿市乳がん検診の個別実施機関も当院のみであるため、受け入れ人数には限りがあることから、昨年度から集団検診の終了以降より個別検診を開始し、集団検診での受検者増加を図っております。

最近の傾向としては、オプション検査で大腸内視鏡検査や腫瘍マーカーを 職員に付加する事業所が増えています。健診者個人でもオプション検査を希望される方は多く、健康への意識は高まっている印象を受けます。

健診の種類は、協会けんぽ生活習慣病予防健診、山鹿市・和水町国保人間ドック、市町村共済人間ドック、一般人間ドック、法定健診、各種特定健診、山鹿市特定二次検査、後期高齢者健診、被爆者・被爆者二世健診、乳がん検診(山鹿市・和水町)、山鹿市肝炎ウイルス検査及び大腸がん検診、山鹿市役所・消防本部職員健診、病院職員健診等です。また、産婦人科外来が委託を受けている山鹿市・和水町子宮頸がん検診の予約業務も行っています。

今年度より従来、内科外来で行っていた健康診断の実施体制変更に伴い、山鹿市職員採用予定者・山鹿市消防本部採用試験・救急救命士免許取得に係る健診業務を実施しております。また、例年同様に病院職員及び山鹿市職員の定期健診において、がん検診等のオプション検査を設定し、多数の申込みを受けました。職員が自身の健康に目を向ける機会の提供となり、疾患の早期発見の一助になると思っております。

また、病院職員から“乳がん検診を受けたいが、受け方が分からない”等の相談を受けた経緯があり、当院の看護師を対象に乳がん検診に関するアンケートを実施し、結果や意見を反映したパンフレットを作成して乳がん検診の啓発を行いました。その結果、病院職員の乳がん検診の実施件数は例年よりも多くなり、実際に検診を受けた職員からは“受けて良かった”との声も聞かれました。

健診の対応は、診察・結果説明・総合判定を豊永先生が行い、心電図・負荷心電図の判定は大庭先生、被爆者健診・山鹿市特定二次検査は川崎室長が担当しました。内視鏡検査は豊永先生を中心に本原先生、柚留木先生に、画像検査読影は幸先生、SAS の判定は坂田和子先生、眼科検査の判定は草野先生・正林先生にご協力をいただきました。

保健師による特定保健指導は、初回の面談で生活習慣改善のための行動変容を動機づけ、半年間の健康支援を電話・手紙等で行っています。今年度は 210 名(昨年比+16 件)の対象者へ、

メタボリックシンドロームの改善に向けて支援を行いました。熊本県肝疾患コーディネーターの活動では、日々の職域健診と併せてウイルス検査の受検を積極的に勧奨し、例年 30 名程の受検を実施しています。また、肝炎ウイルス治療後やキャリアの方に定期検査の重要性を説明し、外来部門のコーディネーターと連携して消化器内科への受診に繋げています。

【スタッフ】

病院事業管理者：豊永 政和

地域健診室長：川崎 修二

保 健 師：鹿子木 光葉、原 沙織

事 務：平野 明子(非常勤)、田川 友紀(委託)

【今後の課題・展望】

令和 2 年度は他部署やチーム医療と連携し、健診受検者と外来・入院患者が重なる検査部門において、待ち時間等の負担を軽減するためにシステムの改変を検討しております。これからも疾患の発症や重症化を予防する視点で受検者の健康づくりに貢献していきたいと思っております。